

## 6月定例記者会見の概要

- 1 日時 令和元年6月10日(月)9時00分～10時00分
- 2 場所 本庁舎3階 第一会議室

- 3 出席者 <報道機関>  
朝日新聞社 南相馬支局(南相馬記者クラブ会員)  
河北新報社 南相馬支局(南相馬記者クラブ会員)  
毎日新聞社南相馬通信部(南相馬記者クラブ会員)  
読売新聞社南相馬通信部(南相馬記者クラブ会員)  
福島民報社南相馬支社(南相馬記者クラブ会員)  
福島民友新聞社相双支社(南相馬記者クラブ会員)  
みなみそうまチャンネル

計 7 社

### <市側>

市長 林副市長 松浦副市長 教育長  
小高区役所長 鹿島区役所長 総務部長 復興企画部長  
市民生活部長 健康福祉部長 こども未来部長  
経済部長 経済部中目理事 経済部笹野理事 建設部長  
総合病院事務部長 教育委員会事務局長

計 17 人

(司会進行)秘書課長  
(会議記録)秘書課広報広聴係

### 【市政報告】

皆様おはようございます。  
本日はお集まりいただきありがとうございます。  
令和元年最初の定例記者会見を始めさせていただきます。

はじめに、前回の記者会見から最近までの出来事についてご報告申し上げます。

東京オリンピック・パラリンピック競技大会に関する話題です。

まず、聖火リレーについてです。

既に報道されていますが、本市が聖火リレーのコースとして選ばれ、雲雀ヶ原祭場地において聖火到着を祝うセレブレーションが開催されることとなりました。セレブレーションでは相馬野馬追の騎馬武者による出迎えなどの企画を検討しております。

また、大会前に開催される「東京2020NIPPONフェスティバル」におい

て、「東北復興」をテーマとした公式文化プログラムが開催されるとの発表がありました。福島県では2020年6月に当市でイベントが開催される予定です。

どちらのイベントも、県と連携して、様々な企画を考えてまいります。

記者の皆様からも、ご意見賜りたいと思いますのでよろしく申し上げます。

次に、台湾関係者の来訪についてです。

5月25日に復興「ありがとう」ホストタウンに関連して、台湾の駐日代表や台北市長をはじめとした多くの関係者が本市を来訪されました。

当日は、震災時のご支援に関する感謝や、本市の復興状況についてご説明し、消防・防災センターや福島ロボットテストフィールドを視察いただきました。

続いて、福島ロボットテストフィールドの話題です。

4月26日に「南相馬滑走路」ならびに「ヘリポート」が開所し、5月13日には滑走路において固定翼ドローンの試験が行われ、渡辺復興大臣にもご視察いただきました。

運営体制については、4月から福島イノベーション・コースト構想推進機構が指定管理者となったことを受けて、東京大学未来ビジョン研究センター特任教授の鈴木真二氏が初代所長に就任しました。

5月29日には、夏に開所予定としている研究棟の活用セミナーが開催され、多くの参加者の皆様に、研究棟の利用方法や設備などについて説明を行いました。

関係者からの視察等も増えておりますので、利活用が図られるものと期待しているところです。

続いて、植樹祭についてです。

6月2日に「第7回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭」を行い、1900名の方々にご参加いただき、約2万5000本の植樹を行うことができました。

記者の皆様にも取材等へご参加いただき感謝申し上げます。

今後も育樹活動を年に3、4回定期的に行う予定としており、来年も6月第1日曜日に植樹祭を開催したいということで今から準備を進めていきたいと思っております。

続いて、今年で3年目となったプレミアム商品券の話題についてです。

6月1日から申し込みが開始となるということで5月下旬より順次発送作業を行ってきたところです。販売は8月3日からを予定していますので、お知らせいたします。

続いて、北泉海水浴場の海開きについてです。

6月5日に南相馬市サーフツーリズム推進委員会が開催されました。水質調査などの結果や、安全体制の確保状況などの報告があり、「海水浴場の開設に向けて、環境整備や安全対策は適切である」とのご提言をいただきました。

市は、関係機関と協力して海開きを成功させるよう、取り組んでまいります。

続いて今後の主な話題について触れたいと思っております。

今月の第3回南相馬市議会定例会に提出させていただき、案件の要旨について概要を説明させていただきます。

今回の提出案件としては議案18件、報告8件の計26件について提出させていただきます。

議案のうち一つを挙げますと、ロボット関連産業の事業者が活動拠点とする貸事務所・工場を建設する経費の計上があげられます。

詳細はのちほど総務部長より説明させていただきます。

続いて、(仮称)小高スマートインターチェンジの話題です。

昨年8月10日に準備段階調査の新規箇所として選定され、9月25日に(仮称)小高スマートインターチェンジ準備会を設立し、関係機関との調整等を重ねてきたところであります。

今後は、国の調査状況を踏まえ、地区協議会の設立・開催準備を行い、新規事業採択に向けて必要な実施計画書を作成・提出する予定です。6月6日にも知事と要望活動を行ったところではありますが、今後とも要望活動を行ってまいります。

次に、JR常磐線に関する話題です。

JR常磐線については2019年度内の全線運行再開が発表されていますが、福島ロボットテストフィールドの利用者が増加してきていることから、商工業者・市民の利便性確保のため一日も早い全線運行再開と、浜通り地方と東京を直通で結ぶ特急列車の運行について要望が増えてきております。

このような状況を踏まえ、明日6月11日に福島県鉄道活性化対策協議会と、浜通り地方の13市町村長で構成する常磐線活性化対策協議会が、JR常磐線の日も早い全線運行再開と特急列車の運行について、国土交通大臣、JR東日本水戸支社長へ要望に伺う予定です。

要望活動には、浜通り地方の自治体、市町村議会や経済団体の代表と一緒に伺います。

続いて、小高区の動きですが、4月末に居住人口が3500人を超え、6月21日には小高区のダイユーエイトが再開される予定です。

市民生活に直結する店舗の再開ということで、住民の更なる帰還を期待しているところであります。

続いて、市役所の地下食堂の話題です。

昨年12月より閉鎖していた地下食堂ですが、新しい事業者が決定し、6月3日から再開いたしました。詳細はのちほど総務部長より説明させていただきますが、事業者からは、「お客様をお待たせしないように、心をこめて食事を提供したい。クレームなどがあればどんどん言ってほしい」と話がありました。メニューも以前より増えています。市民に喜ばれる食堂になればと思っております。

最後にお問い合わせ事項となります。

横川ダムでの農業・工業用水に関する節水のご協力についてのお願いです。

昨年からの降雨量が少ない状態が続いており、農業・工業用水を利用いただいている皆様に自主的な節水をお願いしてきましたが、6月7日現在、有効貯水量が21.2%と、過去10年間の同じ時期の平均50.4%を大きく下回っている状況です。

引き続き、関係機関等と連携を取りながら対応を進めてまいります。利用者の皆様には、更なる節水をお願いします。

私からの報告は以上です。各部長による報告のあと、皆さんからのご質問をお受けいたします。

#### 【各部からの報告】

総務部

- ・第3回南相馬市議会定例会市長提出議案の要旨
- ・本庁舎地下食堂の営業再開について

健康福祉部

- ・市総合健（検）診等業務への看護師派遣に関する協定締結について

#### 【質疑応答】

質問1：

国による小高病院の解体、並びに小高診療所の移転に関するスケジュールを教えてください。

回答1：総合病院事務部長

小高病院の解体工事は、7月以降に医師住宅など付属建物の解体、秋口以降に本館の解体を行い、今年度中には解体完了の見込みとなっています。

小高診療所の移転に関しては、8月1日からの診療を開始できるように進めてまいります。

質問2：

解体工事は国で実施するとのことだが、補正予算として計上している本館と診療棟との接続部を塞ぐ壁の工事費は見てもらえないということか。

回答2：総合病院事務部長

そのとおりです。接続部を塞ぐ壁の設置は市で工事するものとなります。

質問3：

園芸団地地域営農支援施設について、整備の面積、供用開始の時期をお答えください。

回答3：経済部理事

面積は約38,000㎡となっており、パイプハウス46棟、育苗施設5棟を整備します。供用開始は令和3年を予定しています。

質問4：

プレミアム商品券の申込について、昨年度切手の貼り忘れによるハガキの未着に

関するトラブルがあったと記憶しているが、今年度はその点は改善されたのか。

回答4：経済部長

改善できています。今年度は料金後納の手続きを取っており、投函されたはがきは間違いなく実行委員会まで届く仕組みです。

質問5：

浦尻貝塚史跡整備事業の整備はいつ頃までに行う予定でしょうか。

回答5：教育委員会事務局長

令和4年に暫定供用開始、令和6年に全体供用開始を予定しています。

質問6：

浦尻貝塚史跡整備事業の整備は旧避難区域内にあったため、着手できておらず、今回整備することとなったものでしょうか。

回答6：市長

整備計画は震災前から存在していましたが、震災で止まっていた事業で、ようやく着手できる状態となったものとなります。

質問7：

小中学校のブロック塀の工事について、今回対策する小中学校以外に危険と判断されている学校の有無、並びに工事の着手時期を教えてください。

回答7：教育委員会事務局長

昨年度の調査で、建築基準法で不適切とされたブロック塀があった学校が8校あり、5校は既に対策済みです。今回計上した3校については、原町第二中学校は設計、原町第一小学校、石神中学校は工事を予定しています。

残る原町第二中学校の工事については、9月補正予算に計上する予定となっております。今年度中の全校対策完了を目指しています。

工事の着手時期については、原町第一小学校、石神中学校の工事を、6月補正予算の議決後7月から速やかに着手する想定としています。

質問8：

園芸団地地域営農支援施設を整備する狙いや背景などをご説明ください。

回答8：市長

本事業では野菜などの園芸作物について避難地域の中で集約化して行われるものです。米と併せて園芸作物にも復興の光が当たってきたと考えており期待しているところです。

質問9：

園芸団地地域営農支援施設の整備規模を、県内で最大級、あるいは東北で何番目といった表現は可能でしょうか。また、出荷先となる取引先はどこを想定しているのか教えてください。

回答9：経済部理事

整備規模については把握できていないため、改めて回答させていただきます。出

荷先については、元々ＪＡで対応いただいているところであり、今後もＪＡ側でやり取りを進めていただく予定です。

質問１０：

市長は地下食堂を利用されたのでしょうか。昔と比べての思い出などあれば教えてください。また、再開に向けては職員から要望はあったのか。

回答１０：市長

定食を食べましたが、ボリューム満点で、天ぷらもサクサクしていました。また、ボリュームに比べて、値段も安いです。

券売機も導入されて、作業員も出前、調理、配ぜんで計１４名になるなど、事業者側の体制も万全です。

職員もこれまで出来合いのお弁当を買ってくる形であったため、食堂再開に向けて進めてきて、ようやく再開が決まったものとなります。

事業者も一生懸命やっているのので、利用が増えれば良いと考えています。